

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273100329		
法人名	株式会社ホーリー・ポーリ		
事業所名	かずさ三条の里		
所在地	千葉県富津市下飯野998		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成26年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域と共に家庭環境のもとで、介護サービスを行い、安心・尊厳のある生活・自立支援をめざす。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>広い敷地内にデイサービス施設と併設されたホームで、企業の独身寮を改造したのですが、外観が素敵な建物で、広々とした芝生の庭が南東側にあり、日当たりも良く、森や神社に接していて、豊かな自然環境に恵まれています。</p> <p>併設のデイサービス施設と行き来が頻繁にできるので、広い浴場や横になったままで入浴可能な器具の利用、デイサービス利用者との交流、ボランティアによる歌・演芸・マジック・ジャグリング、家族や近隣の人達を交えた広い庭でのハワイアンの踊り・運動会等、活動の幅が広がっています。</p> <p>開設して10年、外部評価による提言を受け入れる等常に積極的に改善に努めて来ていることが窺えます。夜中の近所のぼや騒ぎに、当施設の火災と聞いた人達が心配して大勢駆けつけてくれる等、地域にも認められる存在となっています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議等を利用し、職員間で共有できるように努めている。常に意識・確認できるよう掲示している。	前回の外部評価の勧めを受け、従来の理念を地域密着性を織り込んだものに作り替えており、職員も共有し日頃のケアの中で実践するよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域のイベントに参加し、交流している。散歩・スーパーと一緒に行き交流を図っている。	地域主催の芸術祭に呼ばれて見学に行き、お祭りにはお囃子が施設の広い庭にやってくる龍神の舞を披露してくれます。併設のデイサービスに来る人達との交流があり、ボランティアによるハワイアンイベントには近隣の人達も多数訪れます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に相談を受けた場合、認知症の人の理解や支援方法などをアドバイスするようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回定期的に開催し、地域の方にイベント参加していただくこともできたが、家族の参加が毎回はできていない。	偶数月の定例的な開催が定着してきました。外部から市役所の介護保険課、民生委員達の出席を得て、様々な問題について話し合い、消防訓練を地域の消防団と一緒にを行うことを検討してはどうか等のアドバイスを受けています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連携をとっている。	各種報告や相談事で話し合う機会があるほか、市から担当者が運営推進会議に出席してくれるので、顔なじみの親密な関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修終了者がいる。社内研修・ケア会議を行い、身体拘束ゼロを心掛けている。	身体拘束排除の宣言をリビングに掲げ、運営者・管理者は、県主催の研修を受け、折に触れ職員を指導しています。ただ、禁止の対象となる具体的な行為を全職員が正しく理解しているかは確認できません。非常口を除き玄関は日中施錠していません。	身体拘束や虐待を真に排除するためには、全職員が、どのような行為が身体拘束になり、虐待になるのか正確に理解している必要があります。今後研修の充実が期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で話し合いをし、利用者のボディチェック、変化に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解に努め、必要に応じてご家族と話し合い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明な点が残らないように、説明をしている。不安・疑問点について、繰り返し説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時、ケアプラン更新時、運営推進会議等で要望を聞くようにしている。	利用者については日頃のケアの中や運営推進会議の場で聞いています。家族については、来訪時や運営推進会議及びケアプランの更新時に聞くようにしています。今回実施した家族アンケートでも、回答を寄せた殆どの家族が「職員は話をよく聞いてくれる」と答えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させるようにしている。	担当職員制を敷き、ケアプランの案をそれぞれの担当者が作成することとしているので、職員も運営面について真剣に考え、皆で話合っ最善の方法を考えるようになっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、面談等をし、実績を評価した上で、昇給を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加する機会を持てるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認定調査や外部研修時に交流機会をもち、そこから得たものをサービスの質の向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で、本人、家族の困っていることを聞くようになっている。意思の確認ができない方については、ご家族から話を聞き、様子をみて判断している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で家族より聞くようにし、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス事業者も紹介し、選択していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にとってよいのではないかと考えたことを、ご家族に提案させていただき、一緒に考えてより本人にとって良いケアをおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとってよいのではないかと考えたことを、ご家族に提案させていただき、一緒に考えてより本人にとって良いケアをおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力していただき、支援に努めている。なじみの美容室や従来のかかりつけ医の受診に職員が同行して支援する他、電話の取り次ぎや年賀状等継続的に交流を続けています。	利用者によっては、入居前から利用していた理・美容室に外出を兼ね家族と一緒に出かけたり、以前住んでいた住居を訪問したり、あるいは、面会に来た人と庭内で食事をすることもあります。職員は電話の取次ぎをしたり、地域芸術祭で「地元お囃子」に来てもらう等馴染みの関係作りを支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同制作の作品をつくる中で、関わり合いを持ってもらったり、職員が関係づくりをサポートして、お話等利用して支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もイベント等に参加されたり、必要に応じて、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人もしくはご家族に聞いたり、日々の会話等で利用者の思いをくみ取り意向の把握に努めている。	利用開始前に本人・家族の要望や思い・希望を聞きサービスへとつなげています。利用者一人ひとり担当職員が主となり介護計画作成に取り組み、必要に応じて担当者会議を開き意向の把握に努めています。利用者の何気ない会話、雰囲気から思いなどを汲み取る努力がみられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に確認させていただき、面会等を通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中から有する能力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らせるために、日々の細やかな気づきに対しても、管理者を含め話し合いをし、介護計画作成を行っている。	面会のための来訪時に、家族と話し合い意向確認すると共に、申し送りや全体会議で個々の課題について検討し、月一回のモニタリング、カンファレンスと併せ、随時家族、職員、医師、看護師等の意見を集約しながら現状に即した介護計画を作成しています。変化が有った時は随時見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを日誌に記入し、職員間で情報を共有し、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状態に合わせ、ご本人、ご家族を含め話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事参加や、桜並木など地域資源を活用し、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、希望に添うように支援している。	入所時に家族と話し合い、これまでのかかりつけ医の継続を希望する場合は、受診に家族の協力を得ながら側面的に支援を行っています。利用者の半数は協力医による月一回の訪問診療や訪問歯科のサービスを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回協力医療機関の看護師が訪問し、状態の変化報告、ケアの相談等協力体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できる又、できるだけ早期退院できるように病院関係者と入退院時に連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関して、段階毎に話し合いをして確認し、考えを共有している。	入居時に、終末や重度化した場合の対処方法について「看取りに関する同意書」を家族に説明し確認をもらっています。利用者の状態の変化に従い都度、医療機関、各関係者間で話し合い家族の意思を確認し、本人、家族の意向に沿った看取りを行う体制が築かれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎講習をうけている者もいるが、定期的な訓練等をし、実践力を全員身に付けているまでは、いっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は築けている。消防訓練(年二回)等によって避難できる方法を身につけている。	消防署立ち会いを含め避難訓練を年2回実施しており、今後地元消防団と一緒にすることも検討しています。スプリンクラー等必要とされる消防設備は整っています。巨大災害時等の長期停電に備え、太陽光発電と充電器2台を備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には、誇りやプライバシーを損ねるような対応にならないよう心掛けているが、完ぺきまでは至っていない。	施設では一人ひとりの人格やプライバシーの尊重を重視しています。管理者は全職員に対し、利用者を「さん」付けで呼ぶこと、言葉使いを丁寧にする等、マナーや接遇について細かい指導を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を表せるように働きかけている。あらかせない利用者は、表情等で思いをくみ取り自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日二回あるお茶の時間に話をするようにし、できる人は自分のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の力により支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月一回の誕生会ではイベント食を楽しみ、好みのものを聞き、おやつ作りを一緒に行っている。	おかずは併設施設の厨房で作っていますが、配膳・下膳、片付け等は利用者の得意とする役割を尊重し、場面作りをして支援しています。食事はさりげない介助と楽しい雰囲気の中で進められ、月一回の誕生会のイベント食や花見時の外食なども楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態に合わせ、食事形態やメニューを変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月一回の訪問歯科で助言していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用の方でも、トイレに座ってもらう時間を設けている。	職員は利用者の食事・水分量を確認し、排泄表でチェックしています。表情やタイミングを見ながらトイレ誘導し自然な排泄を促す等、さりげなく声かけしながら排泄介助を行っています。オムツ使用者も日中はトイレに誘導し、リハパン使用者にも自立に向け個別支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を取り入れ、体を動かしたり、ヨーグルトや食物繊維の多いものを利用し、水分量を増やして予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めています、本人の体調や希望により変更している。	全員週3回は入浴できるよう支援しています。本人の体調や変更の希望がある時は無理強いせず柔軟に対応しています。介助が困難な人や寝たきりの人には、併設のデイサービスの機械浴を活用する等支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後は、個々のペースに合わせ、ゆっくりと過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や、副作用、用法・用量について情報提供をみて理解し、その人の状態に合わせた服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせ、気分転換できるよう、外出等ご家族に協力してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を好まない方、重度で行けない方については、近くの神社まで散歩等をし、出かけている。出来る方については、希望をきいてご家族に協力してもらい支援している。	天気の良い日は車イスの人も含め数名に分け交代で近くの神社の境内まで散歩しています。境内及び周囲には四季折々の花が咲き「花見」外出が恒例行事になっています。車でドイツ村やディズニーランドへ遠出することもあります。庭内では日光浴を兼ねウッドデッキ等でサロンを兼ねた茶和会を楽しんだりしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方については支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、電話・手紙等やりとりできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快な環境が発生したときに、話し合って改善している。生活感・季節感を感じていただけるよう工夫している。	居間兼食堂は南側に面していて、近くに建物も無いので見通しが良く、日当たりも良く、快適な空間です。利用者が職員と一緒に作った桜の木の飾りを壁に掲げ、天井から桜の花びらを一枚一枚吊るす等して、季節感を出しています。程良いテレビの音、人の動き回る音等生活感もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、思い思いに過ごせるよう、イス等並べ方を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までに使っていた家具を使用し、好きなものをおいて頂くようにしている。毎朝換気、掃除をし、快適に過ごせるようにしている。	居室は7.5畳ほどの広さにクローゼットが備え付けです。カーペットを敷いたり、住んでいた家が入居を期に取り壊された為使用していた家具の殆どを持ち込みきれいに配置している人もあり、居心地良い雰囲気が作り出されています。朝リビングに移動している間に窓を開けて換気をしており、ホーム側の配慮が気持ちよく感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所は、名札をつけてわかるように工夫している。危険物については、管理している。		